

鳥取神青通信

第21号
発行元 鳥取県神道青年会
編集 鳥取県神道青年会
広報部

新会長 あいさつ

鳥取県神道青年会
会長 蘆立 信一朗



会長職を仰せつかって、もうそんな年回りなのかと愕然としました。不惑と呼ぶには程遠く、未熟なまま年だけ重ねた身では歴代会長方にも現会員方にも失礼になるのではと、よほど辞退させていただきたかったのが正直なところです。ただ、現状の人員不足から才覚ある同輩後輩諸兄には多方面にその辣腕を振るってもらわなければ、との考えもあり僭越ながら拝することといたしました。

資格を授かった当初、神社といえは本務社と兼務社にご年配の助勤神職数名の先がある様に感じられな

い、ごく狭い界限でしかありませんでした。なぜそんな先行きの不安な神社を継ぐ事になったかといえは思考放棄していたからに他なりません。熱心に信仰し、お参りする方を見て育った為、そういう人が一人でもいるなら継ごうと思つたのが端緒です。数年前まで生活費を他で稼ぐという発想もなかったくらいです。

社といえは本務社と兼務社にご年配の助勤神職数名の先がある様に感じられな

社での祭に奉仕させていただいた折には、この様に全国で祭が行われているのかと頼もしく感じました。また、青年会を知り所属させていっただいて、悩みながらも神社の維持運営に尽力する仲間とも呼べる存在が居たのだと、私の斯界への認識は広がりました。

私事ですが、昨年よりお世話になつてきた宮司がご高齢から祭式等が難しくなつたとの事で、新たに四社の禰宜に就く事となりました。もつとふさわしい方がいるのではないか、勝手の違う祭祀を齎行できるだろうかと葛藤もありましたが、秋から正月まで日程調整に窮しながらも宮司、総

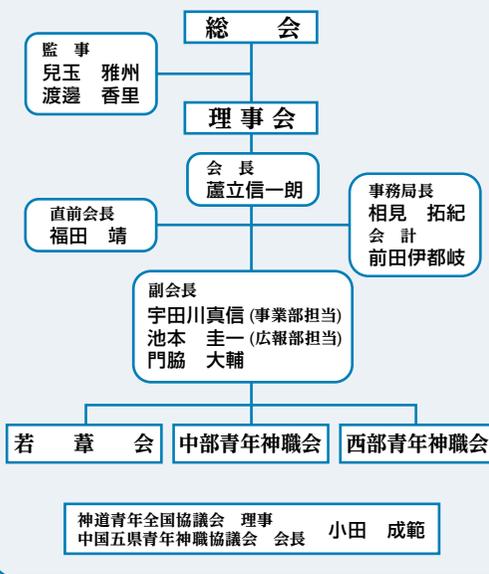
社といえは本務社と兼務社にご年配の助勤神職数名の先がある様に感じられな

きを得ました。田舎であつて生計を立てるのは難しいけれど、やはり心の拠り所としての神社を守つていかなくてはと思ひ直した一幕でした。

同様に、当もなく神職になつた私にとって青年会は拠り所でした。粒ぞろいの歴代会長始め、直前会長の福田さんの様に実直にこなせる自信は欠片もありません。私が受け取る体験価値の方が大きいと思ひます。

が、もし会としても助かる面が少しでもあるのであれば幸いに存じます。神職歴凡そ二十年とは雖も私は未だに柏手が不得手です。二回とも同じように鳴ることも稀です。ただ、列拜であれば後ろに皆がいて、たしだしに打ち上げてくれるだろうとの思いから、憂うことなく手を大きく開いて柏手に臨めます。どうぞ支えてくださいます様、お願いいたします。

令和5年度 鳥取県神道青年会組織図



前会長 あいさつ

福田 靖



先ず以て、謹んで聖寿の万歳と皇室の御清栄をお慶び申し上げます。

この度、鳥取県神道青年会会長としての二年間の任期を終え、退任させていただきました。任期中、当会の創立五十五周年を記念し、私の奉務社である照國神社にて、鳥取県神社廳長様ご臨席のもとに奉告祭を執り行いました。本来でしたら、もっと多くの方をお招きするところでしたが、斎行した令和三年の九月は新型コロナウイルス第五波の最中ということもあり、縮小した形で執行させていただきました。

この二年の間に、周年奉告祭や鳥取市のわらべ館で開催した神宮写真展等の各事業を進めたり、ホームページをリニューアルしたりと、当会にとって、また私自身にとって新たな試みがありました。いづれも滞りなく執り行うことができたのは、事業部員や広報部員、事務局長をはじめとする会員の皆さんの協力、諸先輩方のご理解とお力添えがあつてこそそのものだと思ひます。心より感謝の意を表します。

大震災復興十周年記念祭、沖繩本土復帰五十周年記念祭の祝詞を作文しました。一からの作成ではなく、ベースとなる例文をアレンジしながら書き上げたのですが、「県の会長として、または個人として、どんな言葉で祈念したいのか。どう奉告したいか」ということを改めて考えさせられました。天皇陛下の御言葉が掲載された大震災や復興に関すること、沖繩本土復帰時の様子などを調べたりして、これからの日本は、我々日本人の在り方とは…という思いを多少なりとも祝詞に盛り込んだつもりでいます。作文のために様々な出来事をリサーチしたこと、日本語の奥深さに気づかされたことは、日本人・神職としての自分にとって大きな糧となつたと確信しています。研鑽

や経験を積み重ねいくと、より多角的・多様な視点で祝詞と向き合えるのではないかと、とも思いました。

昨年十二月、京都の清水寺で発表された「今年の漢字」は「戦」でした。スポーツの試合で戦うことや、いろいろな挑戦は素晴らしいことです。しかしながら、軍事侵攻によつて戦うことを余儀なくされる人々や、それに巻き込まれる人々がこの地球上にいると思うと、とても心が痛みます。

また、コロナ禍において人々が戦々恐々とし、心ごとげとげしいものになつていった様は、記憶に新しい

でしょう。日本はもとより、世界中の人々が平穩無事に日々を過ごすことができるよう祈り続けることが神職としての使命だと感じています。一日一日のなんでもないような、平凡とも思えるような時間が、実はとても貴重であり有難いことだと神様に感謝の気持ちを表しながら奉仕をしていく所存です。

最後に、会員の皆さん、諸先輩方、鳥取県神社廳および各神社・宮司様方の御支援御協力をいただきましたことを衷心より感謝申し上げます。



令和三年度 活動記録

〈県〉

四月十三日

●理事会（前年度）
七名・ウエブ開催

四月二十三日

●神道青年全国協議会定例総会
三名・神社本庁とウエブのハイブリッド

五月九日

●令和三年度鳥取県神道青年会 総会
十名・ウエブ開催

五月二十六日

●第一回中国五県青年神職協議会 理事会
五名・ウエブ開催

五月二十九日

●第五十四回中国地区氏子青年神道青年合同研修会
五名・ウエブ開催

五月三十日

●第一回理事会
十名・ウエブ開催

六月二日

●神青協オンライン地区訪問会
三名・ウエブ開催

七月九日

●第二回理事会
九名・ウエブ開催

八月六日

●第三回理事会
六名・ウエブ開催

八月十五日

●会報誌「鳥取神通信」第二十号発行

八月二十六日

●神青協夏期セミナー
三名・ウエブ開催

九月十日

●第四回理事会
十名・ウエブ開催

九月二十日

●鳥取県神道青年会創立五十五周年記念奉告祭
七名・照国神社

十月二、四日

●神青協「デザイン思考と情報発信を学ぶ」ウエブ研修会
三名

十一月九、十一日

●神青協「デザイン思考と情報発信を学ぶ」ウエブ研修会
五名

十一月二十日

●第五回理事会
六名・ウエブ開催

十二月二十日

●第六回理事会
十名・照国神社

一月二十九日

●第七回理事会
九名・ウエブ開催

二月二十三日

●祭式研修会並びに天長祭・第八回理事会
十一名・鳥取県神社庁

二月二十四日

●神社庁神殿祭 祭員奉仕
三名・鳥取県神社庁

三月

●鳥取県神道青年会HPリニューアル

三月二十五日

●第九回理事会
九名・ウエブ開催

〈若輩会〉
四月二十一日

●護国神社例大祭準備・総会・衣紋研修
七名・鳥取県護国神社

四月二十二日

●護国神社春季例大祭奉仕
十名・鳥取県護国神社

六月二十日

●因幡相伝楽・衣紋研修
七名・鳥取県神社庁

九月二十一日

●護国神社例大祭準備・研修会
六名・鳥取県護国神社

九月二十二日

●護国神社秋季例大祭奉仕
六名・鳥取県護国神社

十一月二十八日

●神楽舞研修
八名・鳥取県神社庁

三月五日

●神楽舞研修
五名・鳥取県神社庁

〈中部〉
七月二十四日

●総会
六名・松崎神社祈禱殿

一月三十日

●新年会（会議のみ）
五名・ウエブ開催

二月十一日

●建国祭

一名・大元神社

二月十一日

●中部支部建国祭（玉串料のみ）
一名・鎮靈神社

〈西部〉
五月三十日

●西部青年神職会総会
十名・米子市大神山神社

十二月十六日

●第一回役員会
六名・米子市大神山神社

二月十一日

●建国祭奉仕
三名・米子市勝田神社

三月十五日

●三役会議
四名・米子市大神山神社

三月十九日

●相互研修会
七名・米子市大神山神社

三月十九日

●第二回役員会
七名・米子市大神山神社

令和四年度 活動記録

《県》

四月二十七日

●第一回理事会
七名・ウエブ開催

五月十五日

●沖繩本土復帰五十周年
記念日国土安祈願祭
十一名・鳥取県神社庁

五月十五日

●令和四年度鳥取県神道
青年会総会
十一名・鳥取県神社庁

五月二十日

●神青協「デジタル社会
における神社の在り方を
学ぶ」ウエブ研修会
二名

六月十三日

●第二回理事会
八名・ウエブ開催

六月十八日

●第五十五回中国地区氏
子青年神道青年合同研修
会
五名・広島県東広島市

七月四日・六日

●神青協「神道講話を学
ぶ」ウエブ研修会
三名
七月二十日

●第三回理事会
九名・ウエブ開催

八月十七日から二十日

●神宮写真展「写真で旅
するお伊勢さん」開催
わらべ館

八月三十日・三十一日

●神青協夏期セミナー
二名・神社本庁・ウエブ

九月二日

●神青協「神職のための
神宮研修会」
七名・ウエブ開催

九月九日

●第四回理事会
七名・ウエブ開催

十月二十七日

●神青協 沖繩戦全戦没者
慰霊祭
一名・沖繩県

十月三十一日

●第五回理事会
十名・ウエブ開催

十一月十七日

●神青協臨時総会
一名・ウエブ開催

十二月九日

●第六回理事会
八名・照国神社

一月二十七日

●第七回理事会
九名・ウエブ開催

二月二十三日

●祭式研修会並びに天長祭
十一名・鳥取県神社庁

二月二十三日

●第八回理事会
十一名・鳥取県神社庁

二月二十四日

●神社庁神殿祭 祭員奉仕
三名・鳥取県神社庁

三月二十一日

●第九回理事会
九名・ウエブ開催

四月二十一日

●第十回理事会

四月二十七日

●神青協 総会
五月十四日

五月十四日

●鳥取県神道青年会 総会
《若草会》
四月二十一日

四月二十一日

●護国神社例大祭準備・
総会・衣紋研修
七名・鳥取県護国神社
四月二十二日

四月二十二日

●護国神社春季例大祭奉仕
七名・鳥取県護国神社

七月三日

●因幡相伝楽・神楽舞研修
十名・御湯神社

九月二十一日

●護国神社例大祭準備・
研修会
五名・鳥取県護国神社

九月二十二日

●護国神社秋季例大祭奉仕
五名・鳥取県護国神社

十二月五日

●靖国神社研修旅行
五名・東京都

《中部》
四月十七日

●中部青年神職会 総会
五名・松崎神社 折禊殿

四月十七日

●バックイ研修会
七名・倭文神社 社務所

二月十一日

●建国祭
一名・大元神社

二月二十四日

●新年会
六名・くいもの屋わん

《西部》
五月九日

●第一回役員会

六月・米子市 大神山神社

五月十九日

●定例勉強会
三名・伯耆町 野上荘神社

五月二十九日

●西部青年神職会 総会
八名・米子市 大神山神社

六月二十四日

●定例勉強会
五名・米子市 粟嶋神社

七月二十六日

●第二回役員会
七名・米子市 大神山神社

九月四日

●西部青年神職会 六十周
年奉告祭
七名・伯耆町 野上荘神社

九月二十九日

●定例勉強会
六名・米子市 大神山神社

一月二十四日

●第三回役員会
六名・ウエブ開催

三月二十三日

●第四回役員会
七名・米子市 大神山神社

五月

●西部青年神職会 総会

鳥取県神道青年会
五十五周年奉告祭

鳥取県神道青年会の創立五十五周年を迎えるにあたり、去る令和三年九月二十日、照國神社にて創立五十五周年奉告祭を斎行しました。祭典では、県内中部に伝わる伯耆七座の舞より「莫塵の舞」を奉納しました。

奉告祭終了後、ご臨席賜りました鳥取縣神社廳米原尊仁廳長より「斯界を取り巻く環境が厳しくなる中、



伝統を守りつつ神社と地域の新たな関係性を構築する上で、青年会の担う使命はますます高まってくる。これからも斯界の尖兵として飛翔の精神を胸に、活動への一層の邁進を期待して頂きます。」と激励の御言葉を頂きました。

諸先輩方が築き上げてきた五十五年の伝統、そして技術をしっかりと受け継ぎ、次の世代へ繋げていくことができるよう、これからも会員一同力を合わせて諸事業に取り組んで参りたいと切に思います。

(大元神社 池本圭一)

沖繩本土復帰
五十周年にあたり

令和四年五月十五日、沖繩が本土復帰を果たして五十周年の節目を迎えました。それに伴い、同日鳥取縣神社廳において「沖繩本土復帰五十周年記念日 国土平安祈願祭」を斎行



詞を奏上致しました。祭典後には大澤顧問よりご挨拶を頂戴しました。「沖繩戦全戦没者慰靈祭」には各都道府県より多くの奉仕者が集い、心ひとつに厳かに祭典が執り行われました。二十万人以上の方が亡くなられた沖繩戦、その凄惨な記憶を伝えていくことが私たちの使命であると感じ、未だ争いの絶えない世界の平和について考えさせられる一年となりました。

(倭文神社 米原尊信)

第五十五回中国地区
氏子青年・神道青年
合同研修会

令和四年六月十八日、広島県東広島市は西条の地にて、第五十五回中国地区氏子青年・神道青年合同研修会が開催され、当会からは五名の会員が参加しました。

コロナ禍のため、本研修会が参集型で行われたのは

三年ぶりとなります。

開講式の後、西条駅北側に鎮座する御建神社にて正式参拝をし、西条酒蔵通りを見学する実地研修に出かけました。いずれの酒蔵も西条駅の近くにあり、高い煙突がいくつも見たことが印象的でした。また、それぞれの酒蔵の入り口には酒造りに使われる水が流れ出ており、飲み比べができるようになっていました。

実地研修を終えると、開講式を持った会場へ戻り、広島杜氏組合長の石川達也先生による「放し飼いの酒





造り〜授かりものの酒〜」を聴講しました。西条という地でのようにして酒造りが盛んになっていったのか、酒蔵がこんなにも近くに何軒もある（全国的に珍しいことなのだそうです）のはなぜか、というような興味深いお話を聞くことができました。

西条の地が酒どころとしてどのように誕生し発展していったか、直にその空気に触れながら学習することができた研修会でした。

（照國神社 福田靖）

神宮写真展開催



令和四年は神宮大麻全国頒布百五十周年にあたり、記念事業として【写真で旅するお伊勢さん】と題し、神道青年全国協議会よりお借りした神宮に関する写真パネルの展示を令和四年八月十七日（水）〜二十日（土）にかけて、鳥取童謡・おもちゃ館『わらへ館』（鳥取市西町）を会場に行いました。入場料無料のエントランスホールを展示会場とし、子供達の自由研究の題材として

やすいよう「自由研究おたすけワークシート」を作成し入口に設置する等の工夫を行った為、特に最終日の二十日（土）には親子連れの方々や、お伊勢さんを懐かしみ、足を止められて見学されるご年配の方々など多くの来場者で賑わいました。

ただ、当初予定されていた神社庁教化部主催の「夏休み親子参拝旅行」の日程にこの展示会の見学を組み入れて頂いていましたが、県内の新型感染症の状況が大幅に悪化した為中止となり、神職子弟の皆様にご覧いただく事が出来なくなりました。また、会場担当者とご連絡や会員間での情報共有をより密に行っていたら、更に良い事業となり得たのではないかとこのところは大きな反省材料として挙げられます。

しかしながら、鳥取県神道青年会として、一般の

方々を対象にしたこのような教化活動事業を行った事はあまり無く、会としての活動の幅を広げる事が出来たのではないかと思います。

（宇倍神社 兒玉雅州）

天長祭及び祭式研修

令和五年二月二十三日、天長祭を斎行しました。

天長祭に先立って行われた祭式研修では、鳥取縣神社廳祭式講師の田中倫明先生（東井神社宮司）をお迎えして、天長祭の奉仕に向けた習礼をしながら神社祭式



作法の基礎をご指導頂きました。チリやホコリが少しづつ積もっていくように祭式作法にもわずかずつ我流の癖がついてしまします。祭式作法の基礎と基本を初心にかえて学び直し、また講師の先生や会員相互でチェックし合うことで日々少しづつ積もっていった作法の癖を取り払える有意義な研修会になりました。

祭式研修で基礎作法を学びなおした直後の祭典であり、普段にない緊張感をもって斎行されました。

（矢矯神社 宇田川真信）

単位会の活動

◆若葦会
靖国神社参拝旅行

靖国神社参拝旅行が、十二月五日に開催されました。参加者五名が靖国神社に正式参拝をして遊就館を見学しました。

正式参拝では尊い命を捧げられた英霊の御前で御霊安かれと、参加者全員が敬意と感謝の念を捧げました。

遊就館では、祖国の行く末を案じ家族の幸せを願いながら戦場に斃れた方々、戦後に遠い異郷の地で亡くなられた方々、広島や長崎での原爆投下、各都市での爆撃、沖縄における地上戦など、戦乱の渦に巻き込まれ犠牲となられた方々などの多くの英霊の遺影、遺書、遺品などを拝見し、戦争の壮絶さを感じ、平和について改めて考えました。

靖国神社参拝旅行を通して、今日私たちが享受している平和と繁栄は、戦没者の皆

様の尊い命と、苦難の歴史の上に築かれたものであり、戦争の惨禍は二度と繰り返してはいけなさと感じました。

(矢矯神社 宇田川真信)



◆中部青年神職会
バックイ勉強会に参加して

令和四年四月十七日に倭文神社にてバックイの勉強会が行われました。今回の勉強会は倭文神社の禰宜 米原尊信君の声掛けのもと中部の若手神職を始め、その子どもや一般の方まで広く参加されました。

勉強会は、倭文神社宮司 米原尊仁様にご指導いただき、バックイを作るところから始まりました。祭典の中で見る事はあっても近くで見た事はなく、なるほどこの様な作りになっていたのかと驚きま

した。見た目は複雑でうまく作れるか不安ではありましたが、米原宮司様に教えていただき、二工程ずつ順々に作っていくと何とか完成する事ができました。

次に拜殿に行きバックイの引き方を教わりました。まずは米原宮司様がすると、色々な方向へバックイを操られます。しかし、自分で引いてみると前後どちらか大きく揺らす事も難しく、自在にバックイを操られる米原宮司様に尊敬の念を抱くともに、バックイを引く難しさを痛感しました。

勉強会の最後は、中国地方の神事や神楽について研究しておられる中村元記念館 東洋思想文化研究所研究員 中野秋鹿先生にバックイについてご講義いただきました。鳥取県内、他県、また類似する行事等について映像を交えつつ説明いただきました。今回はバックイについて勉強させていただく事が出来

ました。今後はこの貴重な神事であるバックイを時代へと受け継いでいけるよう更なる勉強又、練習していければと思います。

(上小鴨神社 井上雅也)



◆西部青年神職会
六十周年奉告祭

令和四年九月四日に西部青年神職会六十周年奉告祭を執り行いました。来賓に日野支部の花田敏子副支部長、西部支部の中嶋俊史副支部長をお招きし、野上荘神社(伯耆町)で執り行いました。新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、思うように事業が展開できない中、この周年事業も事前に計画していた禊研修を中止し、西部圏内で奉告祭のみを上げる形となりました。会員七名

が出席し、来る七十周年に向けて西部青年神職会の益々の発展を祈願しました。大々的な事業を展開することは出来ませんでした。少ない人数ながら肅々と祭典を終え出席者一同、先輩諸兄が受け継いできたこの会をさらに若い世代へと継承していけるよう志を一つにする事が出来たと思います。私は最年少での参加でしたが、この度奉告祭に奉仕させていただきました貴重な経験が出来たとともに、祭典にあたり先輩方からのアドバイスやお話を聞く事が出来、神職同士のつながりの大切さを実感する事が出来ました。

(日吉神社 鷺見晃弘)



神青協出向者報告

令和三、四年度

神宮啓発委員報告

小田 成範

令和三、四年度の二年間、神宮啓発委員として神青協に出向させていただきました。神青協にはいくつか委員会がありますが、こちらの委員会は名前の通り神宮に関わる様々なことを啓発していく委員会となっております。全国の地区から出向の青年神職のほか、神宮の神職も二名参加なさっています。参宮促進に重点を置きながら、氏子の皆さんや広く一般の方々に対して神宮への理解をさらに深めていただくための事業を展開して参りました。この二年間の世間の情勢というのは、県外への



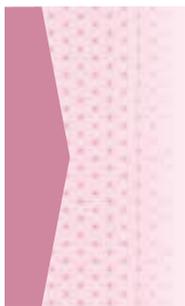
移動を控えるよう強く要請された時期から徐々に経済活動を活発化させていった時期だったかと思えます。当委員会の活動も一年目にはほとんど直接顔を合わせることはなく、事業というよりは会議が多い委員会でありましたが、二年目には多くの事業を実施することが叶いました。中でも全国七か所で展開した神宮写真展では、多くの一般の方々や全国単位会会員の皆様とふれあ

うことができました。この事業は、神青協が所有する神宮の写真パネルを利用して全国の単位会と共同で写真展を開催するというもので、令和四年八月には鳥取市のわらべ館でも実施致しました。他にも富山県では大型ショッピングモールの吹き抜けイベントスペースで雅楽の演奏イベントと共に実施していましたが、岡山県では新築の能楽堂ホールで御朱印帳づくりや髪留めづくり体験と併せて実施するなど、様々な場所でも各県ごとに特色のある写真展を企画していただきました。とりわけ東京日本橋で開催した写真展では、会場前でのピラ配りの成果もあったのか大変多くの来場がありました。そんな中で我々神宮啓発委員は、神宮解説と題してスライドを流しつつ神宮についてのお話をさせていた



できました。はたして言いたいことが伝わったのか非常に心配していましたが、アンケートを見ると好評な意見もあつたようでほっとしております。また、展示見学の方にも声をかけてみると、過去に参拝したことのある方が多く、写真を見てまた行きたくなったというお声もたくさんいただきました。写真展を通じて、少しでも「神宮に行きたい」という気持ちの後押しできたの

ではないかと思っております。そのほか、大学生に神宮を解説して歩いた「青年神職と歩く伊勢の神宮」や、全国氏子青年協議会を対象とした「神宮古殿地清掃奉仕」、写真展来場者に配布する「クリアファイルの製作」など、二年目は精力的に事業を実施させていただきました。この度の出向で得た知識や経験は次期式年遷宮へ向けた活動の中で役立てて参りたいと思います。最後になりますが、この二年間神青協での活動にご理解とご支援をいただきました。今後とも、当会と神青協の活動へご協力の程宜しくお願い申し上げます。



令和五、六年度
地区理事就任挨拶

小田 成範



先日、中国五県青年神職協議会の理事会におきまして、会長及び神青協出向の地区理事として承認をいただきました小田

成範です。平成十八年に直階を取得し、若葦会や県の青年会に参加するようになって十五回程になります。事務仕事を受け持つことが多かったこともあり、まさか自分がこのような立場になるとは思いも寄りませんでした。元より浅学非才の身であり、神職会の長という職に就いたこともない若輩ゆえ鳥取県や中国地区の会員の皆様にはご迷惑をおかけすることになるかとは思いますが、精一杯職責を全うさ

せていただきますので、どうか最後まで見捨てずご協力いただきたく存じます。

さて、現在中国地区として実施している事業には「氏子青年神道青年合同研修会」があります。今年度は山口県で開催され、再来年は鳥取県が主管することになっていきます。講義を受講していただきたいのはもちろんですが、百名規模の研修会の企画運営がどういふものなのか、しっかりと自分の目で見ていただくことも大切な研修であると思っております。さらに中国地区の集まりというのは青年会だけでなく、中堅研修など今後も顔を合

わせる機会は多いかと思えますので、ぜひとも今から同世代の仲間の輪を拡げてもらいたいと思っております。地区会長としての私の仕事は、まず地区会員の皆様どうしをしっかりとつなげることであり、さらに地区と神青協とをつなげることだと思えます。他県の会長や理事の皆さんと密に連絡を取りながら、それぞれの県の思いを神青協にしっかりと届けられるよう、そして神青協の思いもまた皆さんにきちんと伝えられるよう努力して参ります。

一方で神青協役員としては、会報やSNSに携わる広報委員会に配属されました。近年神青協の発行する広報冊子は、表紙デザインや仮名遣いなど過去と比べて大きく変わってきております。これは神青協という組織が何をやっているのか、

何を伝えたいのかを多くの会員に届けたいという思いによるものだそうです。さらにホームページやフェイスブックでタイムリーに発信できるようになったことから、発行回数を減らしているとのこと。鳥取県もそうですが、ホームページでの報告をこまめに行っていく一方で冊子としての会報の発行回数を減らしております。世間の情勢や意識をよく見て時宜にかなった在り方を考えるのも広報なのだろうと感じており、この役割を全国組織で担うことの重大さに襟を正しているところであり

ます。ここから二年間、非常に慌ただしくなると感じております。神青協という全国組織でしかできないことも数多くあると思っておりますので、その一つ一つにしっかりと向き合い、

得たものは鳥取県神道青年会の皆さんに少しでも還元できるようにがんばって参ります。ご指導、ご協力の程宜しくお願い致します。



神道青年全国協議会

<https://www.shinseikyo.net/>



新人会員紹介

【若輩会】

氏名・年齢 小森 泰治 32歳
奉務神社 下味野神社



昨年度まで愛知県の熱田神宮にて奉職しておりました。何分浅学な若輩者ではありますが、何卒ご指導の程宜しくお願い致します。

氏名・年齢 長田 篤典 28歳
奉務神社 姫路神社



國學院大學卒業後、姫路神社にてご奉仕しております。

先輩神職の皆様方から多くのことを学び一日でも早く立派な神職となり社頭奉仕に励みたいと思えます。ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

氏名・年齢 山中 瞳子 25歳
奉務神社 甘露神社他三社



現在、甘露神社他三社の禰宜として奉仕させていただいています。まだまだ未熟な身ですが、ご指導の程宜しくお願い致します。

氏名・年齢 長尾 隆基 23歳
奉務神社 酒賀神社



皇學館大學を卒業し、国

府町の酒賀神社で奉仕させて頂いておられます。

過疎地域神社の問題を考え、現代にどう適応するべきかを、酒賀神社にて実践しております。

まだ経験の乏しい若輩者ですので、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

【中部青年神職会】

氏名・年齢 大坂秀太郎 29歳
奉務神社 北野神社



氏子崇敬者の皆様に親しまれる存在になれる様、日々奉仕に努めて参ります。宜しくお願い致します。



【西部青年神職会】

氏名・年齢 相見 拓紀 39歳
奉務神社 福田正八幡宮



兼ねて米子市大神山神社権禰宜を拝命しております。

山陰一年生・雪国初心者でございますので、滑らず転ばず進めて参りたいと思っております。皆様方のご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

氏名・年齢 小田 圭介 32歳
奉務神社 粟嶋神社



米子市にあります粟嶋神社禰宜の小田圭介です。普

段は教員をしており、限られた時間の中ではありますが、神明に奉仕し、彦名の町と神社をつなぐことが出来るように頑張ります。どうぞよろしくお願いいたします。

氏名・年齢 鷲見 晃弘 31歳
奉務神社 日吉神社



鳥根県神社庁の階位認定講習会で資格を取得し、現在は西伯郡大山町の日吉神社で奉仕させて頂いております。実務経験が浅くわからないことが多いので、先輩方のご指導を賜るべく研修会に積極的に参加したいと思っております。青年会の活動や役職を通じて経験を積んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

先輩からのメッセージ

祈りに寄り添う

永江 吉邦

青年会で活動した頃から約十年が経った。この間、震災、戦争、感染症の流行、異常気象などにより、これまで当たり前としてきた世の中が大きく揺らぎ、様々な感情が渦巻いている。

そんな中で唯一、変わらないもの。それは「時間」である。「時間」だけは、どんな状況に置かれようと誰にでも平等にやってくる。

時の流れの中で、立ち止まる「時間」がある。それを節目という。一年の中で節目があり、人生にも節目がある。節目とは時間の経過ではなく、立ち止まり、これまでとこれからを考える機会である。人は自分の「時間」を割かれたと考えると、いらいだちを覚えることがある。また、自分の「時間」を費やしていい、費やしたいと思う相手もある。

誰かのために「時間」を費やすことは、自分のことにするよりも尊いことである。

同じ場所に居なくても、誰かに思いをはせる「時間」もある。心を寄り添う「時間」もある。これが祈りにつながる。

我々神職は、こうした大切な「時間」を執り持つ役目を担っている。明き清き誠を以て、世のため人のために奉仕し、そして、祈りに寄り添う中執り持ちである。日々、敬神生活の綱領の実践あるのみである。

青年会活動を振り返って

私の得たもの

後藤 裕里香

私の鳥取県神道青年会での活動は中部青年神職会への参加から始まった。当時は少ない人数でなかなか活動もままならない状況で、西部との合併の話が出ていたと聞く。そんな中でも中部青年

神職会として活動を続け、今の会の姿を見れば当時の諸先輩方の思いの形がここにあると思う。

当初は中部だけの活動に参加していたが、神道青年全国協議会の中央研修会を鳥取県で開催することとなり、全県の会員が集う実行委員会が頻繁に開催されるようになり、県下の仲間たちと会う機会が増えた。ほとんどの会員が兼務で別の仕事をしながら神社の仕事をする鳥取県では当たり前のスタイル。中には宮司としてすでに神社の運営を行う方もあり刺激を受けることも多かった。同じ道を進み、世代も近く、神社、仕事、子育て等々、普段感じること共感することが多く話すことは尽きない。周年事業、研修会、震災など、会で多くのことを経験し、自分の中で昇華してきたと思う。

コロナ禍の中、卒会して二年。今も先輩方、後輩達との

関係は支部や県の会などで続き、出会えば親しく話をし、時には飲みかわして同じ時を過ごす。多くの人と出会い、語らい、考え、作り、その経験が今の私を作っている。私は常々思っている。経験に勝るものはない。それはこれからも続いていく。

卒会にあたって

門脇 理恵子

嘗て青年神職会の門を叩いたあの日、目の前に続くのは前途洋々たる希望に満ちた道であった。県内外の偉大なる先輩諸兄や同輩、後輩と出会い、盃を交わしつつ語り合った日々は、我が青春と呼ぶに相応しい、輝ける時であった。

今、我々青年神職の前に立ちほはだかるのは、斯界の現状への漠然とした不安と未来への焦燥ではなからうか。少子高齢化、若者の県外流出は留まることを知らず、集落内には年々空き家が増え、氏

子数も大麻頒布数も減少の一途を辿っていく。日々の糧を得るための仕事に忙殺されながら、価値観の変容の中で「神明奉仕のため」月に何度も休暇を取ることが職場内での立場を苦しくしていく現状も確かにある。繁忙期には社務と仕事の板挟みでも、自らを叱咤し実直に務め、ざりとして研修に参加できねば評価されぬ斯界の階級制度には苦い思いもある。

とは言いながら、我々は、我が国の根幹をなす「神道」を守り未来へ伝えるべき使命を負った者である。立ち止まっている暇はない。そう思えるに至った青年会での経験と、多くの仲間との出会いに心からの感謝を。そして今後も共に難局に立ち向かつていける同志たらんことを切望し、若手神職の貴重な交流の場である青年神職会の益々の発展と後輩諸氏の奮闘を期待している。

顧問の皆様
賜り深謝致します
御協賛を

中田今大池須木霧青松米吉會門
嶋中岡澤本山山林砥田原田見脇
俊正靖祥靖倫典敦一直尊武玲紀
史臣史之史明彦也仁章郎文
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿

令和4年度

中田今大池須木霧青松米吉會門
嶋中岡澤本山山林砥田原田見脇
俊正靖祥靖倫典敦一直尊武玲紀
史臣史之史明彦也仁章郎文
殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿殿

令和3年度

協賛御芳名

「神社と青年神職 仲執り持ちプロジェクト」

当会では令和4年度より、祭典助勤のための青年神職派遣事業を行っております。若手神職に研鑽の場をご提供頂きますよう、皆様からの申し込みをお待ちしています。

詳しくはホームページをご覧ください。お近くの青年会会員にお声かけ下さい。

プロジェクトをご利用頂きました

昨年の秋祭りにご助勢頂く方を探していたところ、鳥取県神道青年会の『仲執り持ちプロジェクト』の事を知り仲介をお願い致しました。祭りの重なる時期で皆様お忙しく、祭員が足らず困っておりましたが、青年会から紹介して頂きとても助かりました。祭りの当日は、若い神職さんをご奉仕して下さる姿に、参拝者の方々も大変喜ばれ、皆様笑顔で和やかな祭りとなりました。ありがとうございました。

(添谷神社 宮司 三須たづる)



お知らせ 会員向け情報 (会員ページへ)

**鳥取県神道青年会の
ホームページをご覧ください!**

活動報告を随時更新しています。通信のバックナンバーも閲覧できますので、是非ご覧ください。

鳥取県神道青年会 HP
<https://www.tottori-shinsei.org/>

- 担当連絡先**
- 東部 ● 河上統一 (白兔神社) 0857-159-0047
 - 中部 ● 福田靖 (照國神社) 0858-152-3015
 - 西部 ● 門脇聖文 (日御碕神社) 0859-145-0128

頒布価格 一体 五〇〇円也

急な地鎮祭が入り早急に鎮物が必要な時や、沢山のロットでの注文しかできない事に悩まれている方は是非当会に御用命下さい。各地域に在庫を確保した担当を配置し、一体からの注文も受け付けております。併せて大量発注もお受けいたします。

※五十体以上注文される際には二週間前に確認いただきませすようお願い致します。



鎮物の頒布

鳥取県神道青年会の事業として鎮物の頒布を行っております。

編集後記

「今やらねばいつできる 俺がやらねば誰がやる」

これは、令和五年に創立百五十周年を迎える私の母校の先人、彫刻家辻晋堂(つじしんどう)先生の座右の銘です。人間は夢や目標を持つていながらも、今すべきことをついに先延ばししたり、自分がすべきことを誰かが何とかしてくれるだろうとあてにしがちです。事を起す際は、自らの考えや責任において覚悟をもつて即実行する。実践するのは難しいですが、その努力を積み重ねることが出来る人間になりたいものです。

扱、鳥取県神道青年会は創立六十周年を迎えようとしており、周年事業の骨子を検討する時期となりました。私たちが今あるのは先人・諸先輩方のお蔭です。その生き方や考え、会の歴史に想いを巡らし、感謝の意を表すとともに、この新しい時代を駆け抜くための決意を表せればと思います。

(庄神社 花田充)